

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国公民科・社会科教育研究会

(代表者 大山 敏 会員数 約1,000人)

T E L 03-3333-7771

1 前 文

現行学習指導要領の下で全ての受験者に対して実施される共通テストは今年度が最後である。出題内容は、学習指導要領に掲げられた教科・科目のねらいや内容におおむね則しており、いわゆる難問・奇問とされる問題は見られず、高校生が学習した知識や技能、涵養した思考力や判断力に基づき、考えて解いていく工夫が施された標準的な問題である。問題作成にあたっては、大問ごとにリード文などをおして大問で問う分野や領域を示し、基礎的基本的な知識の確認と、習得した知識や技能を用いて思考力や判断力を働かせてその分野や領域への理解を完成させる工夫が求められるだけでなく、一定の平均点を確保し、試験実施時間内に解き終わることや高等学校での学習への影響を考慮するとともに、これから大学に進もうとする有為な若者へのメッセージを織り込むことなど、多くの努力を要したものと推察する。ここでは後期中等教育の現場にあつて公民科を与える立場から意見と評価を申し述べる。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等への評価

高等学校公民科「倫理」での学習を踏まえ、基礎的基本的な知識・技能の確認から、習得した知識・技能を用いて思考力・判断力を働かせて解く問題までが、大問4、小問33に、出題分野の偏りなく出題されている。配点は出題分野の偏りはなく、考えて解く問いに配点を重くするなど工夫されている。大問ごとのリード文などでは高校生の日頃の学び、もしくは学びの延長にある状況を踏まえた設定を工夫してあり、各小問には更に資料やメモあるいは図表などが示され、単に基礎的基本的な知識や技能を問うことに終わらない工夫がある。その一方で、高等学校での学びが大学での研究や真理の探究にどのように発展していくのかを見通す知性あふれるリード文がないことや出題者の意図とは別に単なる小問集合に見えてしまう場合があること、あるいは約37ページに亘る問題を丁寧に読み解いていった場合に試験時間内に解き終わるのか、平均点を下げるために選択肢を安易に増やすことなど、検討すべきところではないだろうか。

第1問 会話を読み、資料などを参照しながら源流思想を考える問題。

問1 源流思想に関する基礎的基本的な知識を確認する問い。よきサマリア人の例えや惻隱の心、イデア論、三毒などいずれも基礎基本。

問2 ギリシア思想からソフィストとソクラテスについて基礎的基本的な知識を確認する問い。

問3 イスラームからムハンマドに下された啓示に関する資料問題。選択肢は全て前半で基礎的基本的な知識を問い、後半で読解力を問う。平易。

問4 源流思想に関する基礎的基本的な知識を確認する問い。老子の道、ユダヤ教の契約、イスラームの六信五行、仏教の八正道についての理解が問われた。問われた内容はきわめて平易ながら、組み合わせとして正しいものを選ぶ形式にして正答率を下げようとしている。

問5 旧約聖書と新約聖書を読み、ユダヤ教とキリスト教についての基礎的基本的な知識を問う。資料を示しながらも資料読解を待たず、主なる神や贖罪など知識があれば正答が得られ

る。

問6 『莊子』から「無用の用」と「逍遙遊」を答える基礎的基本的な知識の問い。

問7 新約聖書とスッタニパータを読んで考える資料読解問題。空欄 **a** ではキリスト教における神の国と仏教における涅槃に関する基礎的基本的な知識が問われ、空欄 **b** では資料の読解力が問われた。

問8 空欄 **a** では基礎的基本的な知識を問い、空欄 **b** では会話文の読解に基づく思考力判断力が問われた。難しくはないが時間を要する。

第2問 会話文を読み、資料などを参照しながら日本思想を考える問題。

問1 江戸時代の儒学者に関する基礎的基本的な知識を問う。誤った選択肢は比較的平易なもので消去法で正解④は選べるが、新井白石『西洋紀聞』に通じていないと④を正解とは見抜けない。

問2 日本の古代思想について基礎的基本的な知識を問う。

問3 日蓮の思想について基礎的基本的な知識を問う。

問4 二宮尊徳の思想を資料読解に基づき確認する問い。資料自体は平易だが、二宮尊徳の思想そのものについて知識がないと解けない。

問5 室町時代の芸術について問う。室町仏教の影響を受けた水墨画についての基礎的基本的な知識が必要で日本史とも重なる。

問6 内村鑑三について基礎的基本的な知識を問う。平易。

問7 明治・大正の思想家について基礎的基本的な知識を問う。選択肢に示される思想家の多さに圧倒されるがアとイの内容が平易なだけに正答は容易。

問8 資料を熟読し文脈から正しい表現を選ぶ読解力の問い。国語力の問いでもある。時間はかかるが難しくはない。

第3問 会話文を読み、資料などを参照しながら西洋思想を考える問題。

問1 ベーコンのイドラについて基礎的基本的な知識を問う。平易。

問2 キルケゴールの思想について基礎的基本的な知識を問う。平易。

問3 ホルクハイマーとアドルノの思想、すなわちフランクフルト学派について基礎的基本的な知識を問う。

問4 プラグマティズムについての資料読解と哲学対話の意義について基礎的基本的な知識を問う。時間はかかるが丁寧に読めば正解は容易。

問5 デカルトについて基礎的基本的な知識を問う。正答④は難しいかもしれないが誤答である①～③が分かりやすいので消去法でも解ける。

問6 フロムについての基礎的基本的な知識と資料を読みこむ思考力判断力をあわせた問い。

問7 ヘーゲル「絶対精神」についての基礎的基本的な知識を問う。問われている内容は難しくないが、選択肢の表現が高校生には分かりにくい。

問8 文章をしっかりと読み込んで哲学対話について考えれば正答は可能だが、時間を要する。現代文の読解問題でもある。

第4問 会話文を読み、資料などを参照しながら青年期と現代倫理を考える問題。

問1 欲求不満と防衛機制について基礎的基本的な知識を問う。平易。

問2 環境倫理について、ボールディングとカーソンについての基礎的基本的な知識を問う。

問3 サイードが論じたオリエンタリズムの例を指摘する問い。身近な具体例からオリエンタリズムを選ぶことで単に知識を問うことのないよう工夫してある。

問4 終末期医療についての生命倫理の問い。平易ながら重要な問い。

問5 ベルグソンとシュヴァイツァーに関する基礎的基本的な知識を問う。

問6 ビッグファイブの説明を問う。教科書で学習する範囲外ではないか。

問7 資料やグラフの読解に基づく思考力判断力を問う。資料やグラフ，文章の正確な読み取りが求められる。

問8 二重結果原則についての資料読解に基づく問い。資料からアの内容を読み取るのは難しいのではないか。

問9 二重結果原則と積極的差別是正措置や安楽死・尊厳死の関連を問う読解力の問い。ここまで丁寧に解いてくれば正答は容易と考えられる。

3 総評・まとめ

学習指導要領に準拠しつつ，高等学校で習得する知識・技能と習得した知識・技能を用いて思考力・判断力を働かせて問題を解いていくことをとおして，これから大学で学ぼうとする高校生が身に付けるべきものの見方や考え方を示している。この科目において学習する内容から偏りなく出題され，難易度も標準的である。

4 今後の共通テストへの要望

報告書（本試験）の方に記載。